

公安委員会定例会議(第28回)の開催状況

第1 日 時 令和6年11月6日(水)
午後2時07分 ～ 午後3時43分

第2 出席者 佐伯委員長、五葉委員、小野委員
本部長、総務室長、警務部長、首席監察官、生活安全部長
刑事部長、交通部長、警備部長、警察学校長、情報通信部長
総務課長

第3 議事の概要

1 佐伯委員長説示

本日は、ナチスによるホロコーストを経験した精神科医ヴィクトール・E・フランクルの有名な著書「夜と霧」を読み直して感じたことについてお話ししたいと思います。

何といたってもこの本の最大の魅力は、人間を見つめているところで、中でも私の心に響いたものが2つあります。

まず、絶滅収容所といわれるほど極限状態にあったアウシュビッツ収容所において、生き延びる確率が高かったのはどのような人かというのをフランクルは考察し、「体力的に剛健な人や要領の良い人ではなく、精神性の高さ、豊かな人であった」と書き残しています。その理由を、「なぜならば、彼らにとっては、恐ろしい周囲の世界から精神の自由と内的な豊かさへと逃れる道が開かれていたからである。かくして、そしてかくしてのみ繊細な性質の人間がしばしば頑丈な身体の人々よりも、収容所生活をよりよく耐え得たというパラドックスが理解され得るのである」と述べています。

また、「収容所の中で、死にゆく仲間のパンや靴を奪い取る者がいた一方で、ある人は自分も飢えているのに自分のパンを仲間に与え、温かい励ましの言葉を掛け続けた人がいた」と書き残しています。これは自由に対する考察で、「ナチスは強制収容所の人間から一切を取り得るかもしれないが、しかしたった一つのもの、すなわち与えられた事態にある態度をとる人間の最後の自由を取ることはできないということの証明力を持っているのである」と述べました。つまり、どのような環境であっても、人間がどうふるまうかという自由まで奪うことはできず、自分のふるまいは自分自身が決定でき、その自由を欲するとフランクルは考察しています。

警察職員の方々も、様々な経験をし、ときに辛い状況に置かれることもあるかと思いますが、困難や危機に陥ったときでも、自分がどのようなふるまいをするかは、あくまで自分の自由であり、自分で決定することができると考えると、難局を乗り越えていく希望になると思いますので、フランクルの考えや自由という言葉の意味の重さを参考にして頑張ってくださいと思います。

2 決裁事項

- (1) 公安委員会定例会議の会議録
総務室から、令和6年第27回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。
- (2) 犯罪被害者等早期援助団体に関する規則に基づく書類の提出
総務室から、犯罪被害者等早期援助団体に関する規則に基づく書類の提出について伺いがあり了承した。
- (3) 審査請求に係る裁決書の決裁
総務室から、審査請求に係る裁決書の決裁について伺いがあり了承した。
- (4) 愛媛県監査委員による監査結果報告
警務部から、愛媛県監査委員による監査結果報告について伺いがあり了承した。
- (5) 審査請求に係る裁決書の決裁
交通部から、審査請求に係る裁決書の決裁について伺いがあり了承した。
- (6) 愛媛県警察関係事務手数料条例の一部改正
交通部から、愛媛県警察関係事務手数料条例の一部改正について伺いがあり了承した。

3 報告事項

- (1) 「第43回勲章伝達式」の開催
首席監察官から、「第43回勲章伝達式」の開催について報告があった。
委員から、「危険な業務を全うし、その功労として勲章を授与することは重要な意味があり、受賞者もさぞ喜ばしいことと思う」との発言があった。
委員から、「危険で大変な業務を全うした功績である。立派な勲章伝達式となるように願っている」との発言があった。
委員から、「長年緊張感を持って職務に励んできた方々に対する勲章である。その功績に報いることのできる式にしていきたい」との発言があった。
- (2) 第54回全国白バイ安全運転競技大会の結果
交通部長から、第54回全国白バイ安全運転競技大会の結果について報告があった。
委員から、「白バイ隊員にとって目標となる大きな大会だと思う。訓練は厳しく辛いこともあると思うが、ぜひとも多くの隊員が出場できるように訓練に取り組んでいただきたい」との発言があった。
委員から、「全国3位という素晴らしい成績を誇りに思う。白バイ乗務は厳しく危険な業務だと思うが、安全かつ冷静に、いかなる事態にも余裕を持って対応できるように練度の向上に努めていただきたい」との発言があった。
委員から、「白バイは格好よく、子供たちの憧れの的だと思う。大会の様子を拝見したが、大型バイクを本当に細かく高い技術で運転していることがよく分かり、レベルの高さを実感した。また次の大会に向けて訓練に励んでいただきたい」との発言があった。

(3) 「テロ対策愛媛パートナーシップ推進会議」及び「愛媛県サイバーテロ対策協議会」の合同開催

警備部長から、「テロ対策愛媛パートナーシップ推進会議」及び「愛媛県サイバーテロ対策協議会」の合同開催について報告があった。

委員から、「サイバー攻撃は、被害拡大が懸念される犯罪の一つだと思う。ぜひともこうした会議を積極的に開催し、危機意識の向上や未然防止に役立てていただきたい」との発言があった。

委員から、「テロ行為は巧妙に進化しており、実態把握と対策が重要である。協議会等を通じて積極的に情報発信し、テロ防止に努めていただきたい」との発言があった。

委員から、「実空間のテロ対策とサイバー空間のテロ対策について、合同開催により連携したことは心強い。今後も積極的に相互の連携、パートナーシップを深めるとともに、グループワークによって意見交換や人間関係の構築を図り、取組効果を高めていただきたい」との発言があった。

(4) 令和7年愛媛県警察運営目標（案）の策定

警務部から、令和7年愛媛県警察運営目標（案）の策定について報告があった。

(5) 監察事案に関する報告

警務部から、監察事案に関して報告があった。

(6) 令和6年度全国警察柔道剣道大会結果

警務部から、令和6年度全国警察柔道剣道大会結果について報告があった。

(7) 令和6年度中国四国管区内警察拳銃射撃競技大会結果

警務部から、令和6年度中国四国管区内警察拳銃射撃競技大会結果について報告があった。

4 その他

(1) 警備部長から、本年11月2日、県内に発令された大雨警報及び記録的短時間大雨情報に係る県警察の対応及び被害状況に関して報告があった。

(2) 本部長から、「委員から、「夜と霧」に関する説示をいただいた。確かに生き延びる者は必ずしも強い者とは限らず、環境の変化に適応できる柔軟性やしなやかさを持つ者が生き残ることは、著者がいう内面の豊かさに通じるものがあると思う。同じ境遇に直面していても、心の持ちようによって見え方が変わることはままあることで、業務において困難に直面した場合でも、時が過ぎるのをひたすら待つ人と、成長させてくれる好機と前向きに捉える人とを比べると、後者の方が苦境を乗り越える可能性が高いように思う」との発言があった。

以 上